

ああ、 結婚！

—婚活日記—

第22回

黒田長宏

<2022年2月2日>

25日締め切りではあるが、慣例通りに早く48号を提出した。これが私の性格である。なんでも早く終わらせたい。だが、人生は早く終わらせたくない。まだ実子も諦めきれない。そんな54歳。婚活は就学や就職よりも難しいと思う。(これって、前回から一箇所、7を8に変えただけじゃないか！)

<2月14日>

非常に珍しい事だが、某マッチングアプリでいいねしてくれた人が現れたが、その人のコメントには、子供が欲しい人は無理だというのもあり、一番影響のない方法は無言でブロックする事だと思っているので、そうした。もったいないことだが、私のほうは何百人いいねしてもマッチングしないのと、たまにマッチングしてからブロックして去っている人がいるが、今回の私と同じような気持ちなのかも知れないと思い、それががっかりするので、いいねもせず、ブロックした。こちら辺がマッチングの冷たいような仕組みだが、最善がどうかはわからない。だが、自信が与えられる。それならば、私もいいねしてきてブロックした女性たちに良い気持ちは与えたのかも知れない。

<2月23日>

某マッチングアプリで、交際する気がないのでコメント送らないでと来たのでブロックした。マッチングアプリの仕組み自体が結婚しにくい人には難しいので、新たなマッチングアプリの仕組みが開発されれば大金持ちだと思う。だいたい、大金持ちならマッチングアプリをしなくても結婚できるのかも知れない？だが、反応がない人がほとんどの中で、真面目というか、気持ちはある人だったに違いない？

<3月15日>

某マッチングアプリで久しぶりにいい

ね！でマッチングした人が来たが、どうなることやら。

<3月30日>

某マッチングアプリで久しぶりにいいね！の人は消えてしまったような記憶があるが、その後アピール出しまくったら2人マッチングしたが、2人ともなぜか送信ブロックになっている。どうせなら全部ブロックしてくれ。ふと思いついて、相手の文章にボケたりツッコむことにした。いくら応募してもずっと応募してもダメならば、お笑いのセンスを練習しようと思う。ウィル・スミスのお様をからかったようなコメディアンにはならないようにしよう。

<5月8日>

来ないなど少し心配になっていたところ、編集長からのお知らせがきた。次の連休の初日に原稿を送らせていただこうかと検討している。

某マッチングアプリでは、今日一人マッチングしたが、そこからストップしている。以前の別の人は、マッチしてもその後ストップが長引いていて反応もないので、ブロックさせていただいた。このように、マッチングアプリなのに、マッチしてくださるだけで、その後の反応が全くないまま、成就しない場合が、私のような高年齢だったり、負けてしまう者にとっては、その永遠のように思える繰り返しである。なんだかとてもつまらない内容が続いているとは思いますが、これが現実なの

である。面白いのはドラマである。この実態は、ノンフィクションライターが取材してくれたりすると公に出たりするが、まず、なかなか公にはならない事だと思う。だから、

私は多くの認知されるチャンスに立たねばならない。だがそれも疲労する。この雑誌に書かせていただいていることは有難いことで、そしてこの時代、YouTubeという切り札が現世界に出現している。

昨日、健康診断の結果で、肺に陰影があるかもしれないから、CTを推奨しますと書かれて、おまけに、以前からの中性脂肪と悪玉コレステロールの高いのに加えて、尿の窒素？も基準値より高くなってしまった。その場合、赤字として数字が出ている。もっと人生が死と表裏だということを

実感していなければいけないのに。ただ、それに鈍感になっていることが、生きられる仕組みのようになっていなのかも知れない。それどころではない。生死よりも性志とでもいうべきところを、生きていうちに叶えたいものだ。あまりに結婚できない人があふれてしまっているらしいのだから。

<5月12日>

今から原稿提出をしようと思う。某マッチングアプリは、相手からラインにしようと言ってきたのに、

ラインに繋がる数値を教えたらなぜか相手がブロックしたまま、ラインもこない。その後、近場の25歳で、投資で莫大に

稼いでいて企業を始めるという女性のほうからいいね！がきたが、私はそういう実業に関してやる気がないし、年齢に差がありすぎるし、婚活目的なのだし、ブロックさせていただいた。その後、間髪入れずに、年齢的には30代後半だが、企業の社長をしているという人のほうからいいね！がきて、雑談ならいいと返信してみたが、反応がまだない。このようにマッチングアプリだとキツネにつままれたようなこともあったりするが、このところ、多様性とかグローバルイズムとか言われてきたが、生活状況が違いすぎてついていけなさそうな、また詐欺ではないかというような、もっとマッチングアプリにせよ、仲人業界にせよ、そうした企業のサービスに婚活というのは、実際にそれでご結婚されて幸福にやっている二人もいるのだとしても、私には複雑化するばかりで、多様な男女がいるほどわけがわからなくなる気がする。昔の交通事情その他が発達していない頃の、同じ地域とか見合いとか、そういう結婚までの方法のほうがやりやすかったのではないか。

その後に、職場結婚が増加したかも知れないが、それだって、多様化によって、得手不得手が出てきてしまったのではないか。そして得意な人間は軽く騙しのような手口で、伴侶も見つかったら、不倫などの悪事も簡単に乗ってしまう女性まで見つけてしまうのではないか。その反面で、結婚したくても『比較』に負けてしまい、婚活だといくら参加しても負けてしまう人が出ているのではないか。婚活は2位は成り立たないのだ。ひねって不倫という悪事のようなものだ。

結婚は1位と1位の心底の永続的信頼でしか成り立たないのではないのだろうか。このように、いくら連載を続けさせていただいても、現状変化を起こすことができない。結婚できない。ただ、

YouTubeの「婚難救助隊」という私の運営サイトの登録者が98人になり、増加の方向だということである。